



## 株式会社 イシダ 滋賀事業所 [電気機械器具製造業]

再資源化率 99.5%を目標に廃棄物総量の削減/リサイクル率向上に取り組むとともに、廃棄物計量管理システムなどの環境支援製品や製品自体の環境性を高めた環境配慮製品の開発、地球温暖化防止など事業活動における環境負荷低減に努めています。

### 【施設DATA】

所在地 : 滋賀県栗東市下鉤 958-1

事業概要 : 計量・検査・包装機器等の開発・生産・販売

電話番号 : 077-551-0191 (環境安全推進室)

URL : <http://www.ishida.co.jp>

### ■ハカリから計量・計測技術を核としたシステム事業へ

当社は 1893 年に日本初のハカリメーカーとして創業し、業界のパイオニアとして、計量器、検査機、包装機及びシステム機器などの開発・生産・販売を行なっています。ハカリは、単なる計量の道具から精密電子機器、情報端末機器へと進化し、当社は、計測技術を核にして、生産、物流、流通分野の周辺技術を統合したシステム開発産業を目指しています。滋賀事業所は主力工場であると共に、生産・開発・サービスの中核拠点です。

「社会性」、「人間性」、「経済性」の「三方よし」を視野に入れた行動理念のもとに、「社会性」の現れとして環境/資源の取組みを進めています。ISO14001 認証は 2004 年に取得し、現在の重点課題は、①環境配慮型製品の提供、②省エネルギー・省資源、④廃棄物の削減、⑤地域社会との共生、です。

滋賀事業所は、2008 年 5 月に、環境保全活動の取組みに対して(社)滋賀県環境保全協会から「環境保全優良事業所」の表彰を受けました。これまでの取組みの中から、廃棄物削減/再資源化について紹介します。

### ■再資源化は余分な仕事をなくし、コスト効果を生む

廃棄物削減/再資源化の取組みは、環境責任者が 2000 年に県内の廃棄物処分場を視察した際に、残余年数がほとんど無いことを実感して始まりました。オフィス古紙について言えば、当時は各人が自分の机の横にゴミ箱をおいて、それが一杯になるとごみ集積所まで運んでいました。その後リサイクルの仕組みを導入し、社員は、リサイクルが余分な仕事をするのではなく、自分がごみを運ぶことが少なくなり楽になるのだという認識を持つようになりました。処理費用の低減、焼却炉の分析費用がなくなるなどのコスト効果もあります。現在、一般廃棄物は 5 種類、産業廃棄物は 20 種類の分別でデータをまとめていて、滋賀事業所の 2007 年度の廃棄物排出量は固形物 180 トンと廃油 4900ℓで、180 トンの内訳は一般廃棄物が 71.4%、産業廃棄物が 28.6%でした。

#### ◇一般廃棄物

段ボール、新聞・雑誌・冊子類、コピー紙は製紙再生品としてマテリアルリサイクル、紙くず類は R D F 化によるサーマルリサイクルをしています。

## ◇産業廃棄物

産業廃棄物の45%を占めるビニール及び発泡スチロールはRPF化によるサーマルリサイクルをしています。その他の産業廃棄物として金属類の廃材、電気基板、モーター類などがありますが、全てマテリアルリサイクルしています。廃食用油はバイオディーゼル燃料に再資源化しています。埋立処分していた金属複合プラスチックやガラス・陶器類も路盤材等としてリサイクルする目処がたち、埋立処分もゼロになります。

## ■廃棄物マネジメントを支援する製品の提供

### 廃棄物計量管理システム



当社は計量器とそのシステム化を中核事業としていますので、廃棄物の計量を支援するシステムも開発しています。

## ◇廃棄物計量管理システム（商品名：エコノート）

ごみ集積場に計量器を置いて計量情報を記憶媒体に記憶し、事務所に持ち帰ってパソコンで各種表やグラフや報告書に加工できます。排出部署や分別種類ごとの構成比の把握、目標管理などにも役立ちます。

写真は当社での運用例です。運用に当たっては、部門の担当者に装置の操作法を教育するだけでなく、分別の重要性、計量結果の数値化によるフィードバックなどを教育しています。そして、その担当者が部門内へ展開するようにして、環境支援製品の運用を環境教育に役立てています。

---

### ■従業員の自主性を高める、地域活動や環境教育の推進

◇10項目のエコオフィス運動を推進していますが、その中に、ごみ分別の徹底、オフィス古紙のリサイクル推進、紙くず/廃プラ類のリサイクルを含めています。

◇滋賀事業所前の県道を清掃美化するボランティア活動「インダエコフォスター活動」、環境出前授業に協力する家庭教育協力企業協定活動などを行なっています。

◇3R（Reduce、Reuse、Recycle）については、従業員の自覚と知識の底上げが重要です。3R検定（京エコロジーセンターが事務局）が始まりましたが、環境知識の自己啓発と会社支援をミックスさせた方法で、従業員の検定受験を支援していきます。

◇環境保全活動の意識付けには「結果の見える化」が大切です。社内の掲示板やイントラネット、当社のホームページ、環境社会報告書などで、社員の言葉も含めて活動状況や成果の見える化を進めています。